

# 定例会(2026年2月)次第

令和8年2月5日(木) 午後7時  
くろべ市民交流センターあおーよ

## 1) 会長挨拶

## 2) 経過報告・報告事項

- ・1月11日(日) 新春登山 天候不良により中止
- ・1月18日(日) 八乙女山 別紙参照
- ・1月24日(土) 烏帽子の日 天候不良により中止

## 3) 審議事項

- ①2月7日(土)～8日(日) 雪中テント泊 担当 堀正幸・石田  
参加者(8名):川上、堀正幸、藤谷、石田、芦崎、村藤、大坪、菅洞  
雪中キャンプで作成した「雪山キャンプ」(別紙参照)の印刷代、  
ガスカートリッジ、電池代は会から補助を出す予定。
- ②2月15日(日) 戸倉山 担当 川村・中野
- ③3月7日(土) 大地山 担当 瀧本・堀正幸  
別紙参照
- ④来年度について  
山行計画については別紙参照 2/12 18:30から山行委員会で担当者決定  
来年度の組織図は別紙参照

※2月17日(火) 14:00～ シニア会員説明会

※2月28日(土) 烏帽子の日(会員のみ) 担当 森田・三日市信・晴被・澤渡⇒杉原  
くろべ牧場 8:00 集合

※3月29日(日) 赤祖父山 担当 折谷・芦崎  
春一番に咲く花 福寿草、雪割草、節分草等の花を目的とした山行。  
下見は2月下旬の予定。雪が多い場合は雪山山行の可能性あり。  
詳細は次回定例会。

※4月3日(金) 総会

## 4) その他

- ・新会員 宇川 卓也さん

(次回定例会 令和8年3月5日(木) 午後7時 くろべ市民交流センターあおーよ)

## 黒部山岳会 2026年 3月定例山行(案)

山名	大地山
標高	1167m 標高差 1000m
所在地	朝日町
山行日	2026年3月7日(土)
予備日	2026年3月8日(日)
集合場所 時間	黒部市民病院P 6:00 入善Sインター山側駐車場 6:30
服装 装備	残雪期登山スタイル (カンジキ、軽アイゼン)
担当者	堀正幸 瀧本
参加費	500円
参加者	
工程、ルート	小川ダムルート
登山口	小川ダム管理棟P (小川温泉トンネル手前)
所要時間	上り 約4.5時間 下り 約3時間
行程概要	黒部(6:00)、小川ダム(7:00)、夢想塾R合流(9:30)、大地山(11:30~12:30)
	分岐(13:40)、小川ダム(15:20)、黒部(16:00)
備考	積雪の状態でもコース及び山名変更もあり 前日の天気予報を見て山行日を決定します

2026年 黒部山岳会山行計画(骨子案)

- 1. 毎月第四土曜日は烏帽子の日 自然保護委員が中心で運営
- 2. 昨年度天候により実施できなかった山行も再度検討
- 3. 夏・冬テント泊、小屋泊り2回(縦走含め)、日帰り登山をバランスよく2回/月
- 4. 残雪期のみチャレンジできる山行も実施する

- ・各員が1回企画担当(都合により変更可能)
- ・基本は二名体制で山行計画担当(下見は交通費1回分支給する)
- ・中止・延期の判断は2日前(金曜日中)に判断し連絡
- ・日曜日⇒土曜日、平日に変更と追加参加もOK
- ・今後車手配のが大きな問題(平日山行は企画中止)

2025年  
三日市

	令和9年70周年記念登山																	
	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者
恒例の行事 総務	総会 6時	3	事務局	名水マラソン	24	事務局				烏帽子登山 道整備	19	自然 保護	僧ヶ岳 登山道整備	25	自然 保護			
烏帽子の行事 自然保護	烏帽子の日	25	川上 広浜 柳沢 川村	烏帽子の日	23	尾花 関原 三日市雅 杉原	烏帽子の日	27	菅洞 藤谷 滝本 中野	烏帽子の日	25	佐々木基 宝田 村上 村藤	烏帽子の日	22	荻野 田村 松本 堀	烏帽子の日	26	森田 佐々木隆 折谷 佐藤
日帰り登山	飯縄山	19		神奈山	17	17	明星山	21		美ヶ原	12	村藤	戸隠山	2		猪ぶせ山	13	
				ロープワーク 安全登山講 習	24	安全委員会	警備隊 講習	20	安全 委員							爺が岳	6	
平日山行 (第三水曜日)	大鷲山	15	入善P 7:30	南保富士	13	入善P 7:30	負釣山	17	入善P 7:30	大地山	15	入善P 7:30	白鳥山	19	入善P 7:30	黒菱山	16	入善P 7:30
テント泊				立山	9・10					双六・鷲羽	17・18・19		鳳凰三山	28・29				
小屋泊・温泉							高賀山 夜叉ヶ池 (温泉)	5・6										
山岳連盟活動																		

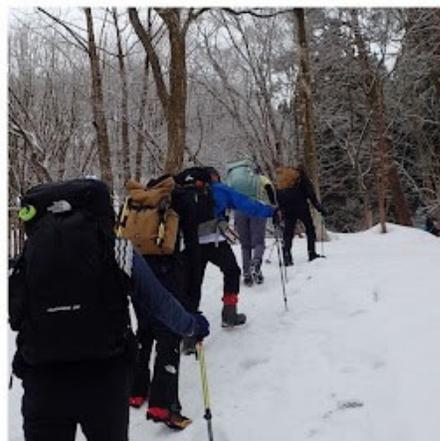
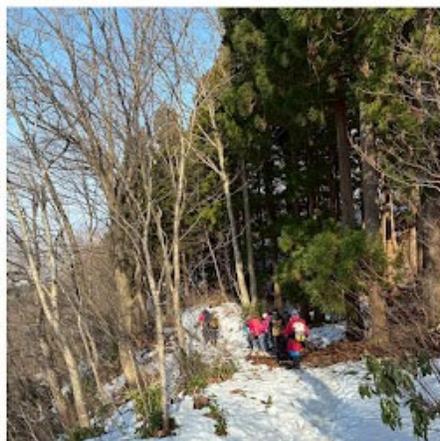
	10月			11月			12月			1月(2027)			2月			3月		
	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者	計画	日程	担当者
恒例の行事	公民館 祭り						忘年会		総務	新春登山	10							
烏帽子の行事 自然保護	烏帽子の日	24	宮寺 高澤 石川 芦崎	烏帽子の日	28	橋本 三日市信 大坪 長谷				まきば牧場 雪絵文字	23	自由参加	まきば牧場 かまくら	27	自由参加	まきば牧場 飯ヶ岳	27	堀正 佐々木邦 宇川 石田
日帰り登山	雨飾山	4		大品山	8		小佐波御前 山	6		虎谷山	31		南保富士 黒菱山	14		金剛銅山	7	
	福知山	18								千垣山 (	17							
19日 山にイク日	僧ヶ岳	14	黒部P	城ヶ平 はげ山	18	魚津P	南保富士	16		馬りょう山 三峯小屋	13		大鷲山	17		負釣山	17	
テント泊													上高地 散策	6・7				
小屋泊・温泉																		
山岳連盟活動																		

山名	八乙女山 ～八乙女山で雪あそび 2つのピークを歩く～		
標高	756 m		
距離・累積標高	距離： 6 km	累積標高差： (上り) 535 m	(下り) 535 m
所在地	富山県南砺市		
山行日	2026年1月18日		
予備日	なし		
集合場所/集合時間	7:00 出発予定 黒部市民病院 7:15 出発予定 新川文化ホール (コメリ側)		
服装・装備	冬季日帰り装備 カンジキ、軽アイゼンorチェーンスパイク、(お持ちの方) スコップ		
担当者	高澤、石田		
参加費	2,000円 ※現地集合の人は参加費不要		
参加者	芦崎、折谷、堀正幸、佐藤、石田、藤谷、 晴枝、石川、関原、村藤、宇川、高澤 (12名)		
行程	登山口	閑乗寺公園駐車場	
	ルート名	八乙女山往復コース (閑乗寺公園駐車場から山頂)	
	登り	2 時間	下り 1 時間 休憩 1.5 時間 合計 4.5 時間
	登山口到着	8:30	
	登山開始	9:00	
	山頂	11:00	
	休憩場所へ	11:15	
	休憩	11:15～12:30	
	下山開始	12:30	
	登山口	13:30	
	八乙女山にある2つのピークを歩きます。 休憩は山頂から少し移動して東屋付近を予定しています。 天候により休憩時間を短縮する場合があります。		
感想 (担当者)	閑乗寺公園から八乙女山の2つの山頂を経て、風穴のある広場へ。湿り雪に足を取られ、風穴付近は少し風もありましたが、タープの下で雪のテーブルを囲んでわいわいとランチを楽しみました。晴れ渡る砺波平野の絶景を眼下に眺めながら下山。冬山の醍醐味を満喫した一日でした。		

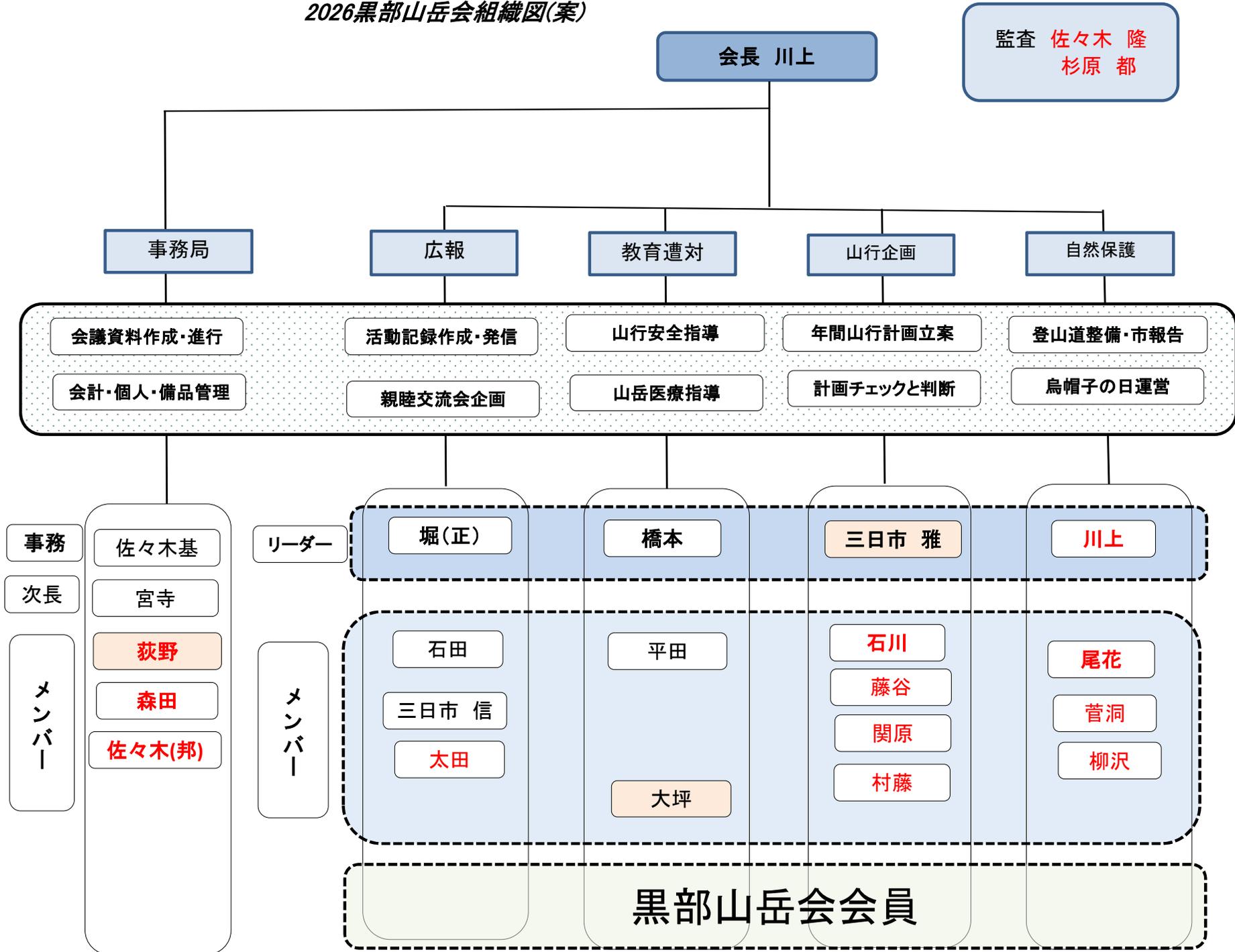
# 八乙女山 山行(2026/1/18)

山名：八乙女山 期日：2026年1月18日（日）

参加者：12名 松本、晴枝、藤谷、関原、堀正幸、芦崎、高澤、折谷 石川 石田、村藤、宇川



2026黒部山岳会組織図(案)



# 雪山テント泊

2024/2/3

2026/2



大品山 2月



雷鳥沢テント食事 5月



湊沢 5月



八ヶ岳行者小屋 2月



燕岳 1月

## 黒部山岳会

山と溪谷社「雪山登山」より抜粋

# テント設営①

## 場所選びと整地

### 初心者は「キャンプ指定地」で

雪山でテント泊をする場合、大きく2つの選択肢がある。冬期も営業している山小屋周辺の「キャンプ指定地」か、ルート上の安全な場所を選んで自由に張る「指定地以外」か、という選択だ。

山小屋によって管理されているキャンプ指定地の最大のメリットは、何よりも安全が確保されていること。また、小屋が近くにある安心感は絶大で、売店、食堂、トイレなどの施設も利用できる。雪山テント泊の初心者は、まずは山小屋のキャンプ指定地を利用するのがおすすだ。

## 場所選び

### 平らで、雪崩などの危険がない場所で

指定地以外でテントを張る場合、条件としては、適度な広さがあり、平らで、雪崩などの危険がない場所を選ぶ。谷筋や雪の斜面の途中、雪崩斜面の直下、雪底の上などは危険なので絶対にテントを張ってはいけない



#### ①稜線

稜線の風上側は強風が吹くので避ける。風下側に少し下れば張れることもあるが、雪底に要注意

#### ②樹林帯

傾斜の緩い樹林帯は、風も避けられるので適地。ただし、木の近くは穴や落雷があることもあるので注意

#### ③斜面、谷筋

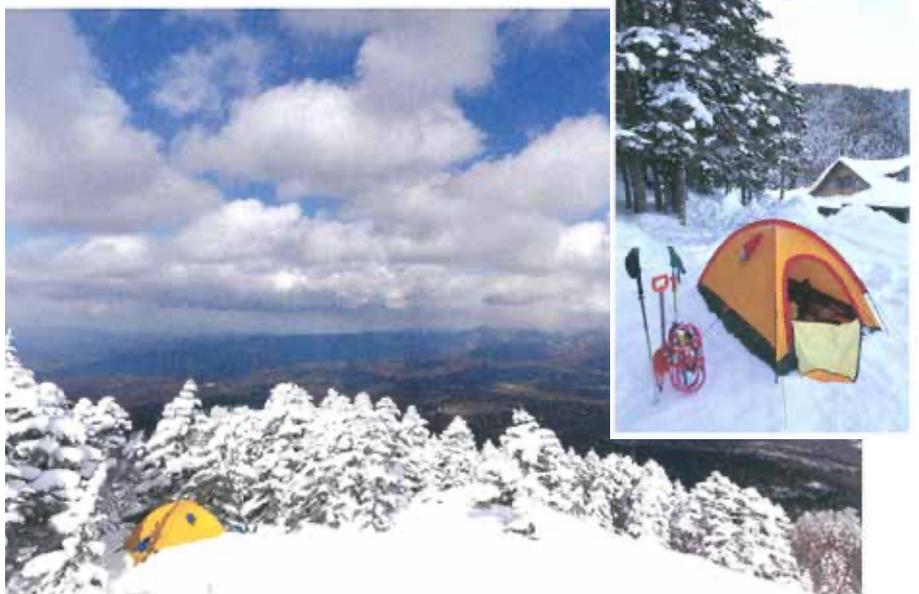
谷筋や雪の斜面の途中は、雪崩が起きる可能性があるため、絶対にテントを張ってはいけない

#### ④尾根

広くて傾斜の緩い尾根上は適地。風下側に張り出した雪底には注意する

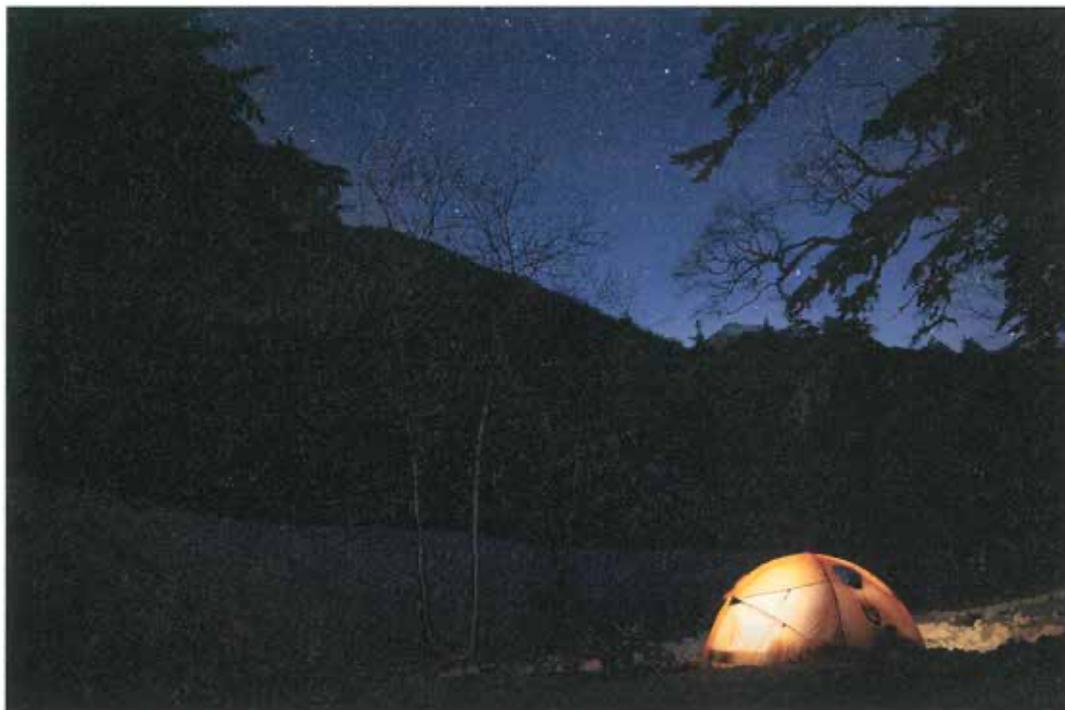
## 「どこに張るか」が難しい

指定地以外でのテント泊は、自分が泊まりたい場所に泊まれる点では、雪山の醍醐味である「自由」を味わえる。天気さえよければ、自分たちだけの静かな山の夜を満喫できるだろう。だが反面、安全かつ快適なテントサイトを自分たちで見極めなければならず、「どこに張るのか」の判断は意外と難しい。もし雪崩のリスクのある場所に張ってしまうと、悪天時に雪崩が発生した場合、テントごと埋没してしまうおそれもある。設営場所は、計画時に地形図やガイドブックからある程度見当をつけられるが、やはり現地で周辺の地形を観察して、その場所が安全かどうか自分の目で確かめることが大切だ。また、行動中は常に周囲を観察して、テントが張れそうな場所の目星をつけておくといい。そうすれば、予定していた設営場所まで到達できなかったり、天候が急激に悪化して行動困難に陥ったりしたとき、慌てずにテントを張って安全を確保できる。



## 「キャンプ指定地」か「指定地以外」か

山小屋によって管理されている「キャンプ指定地」であれば、初心者でも安心して雪山テント泊デビューができる(右)。「指定地以外」でテント泊をする場合、どこに張るかの判断が重要(上)



## 快適な滞在は「整地」から

設営場所を決めたら、「整地」を行なう。地面の上にじかに TENT を張れる夏山と違い、雪山では何もせずに雪上に張ってしまうと、TENT に入ってから底面が沈んだりして、不快な一晚を過ごすはめになる。設営前には必ず、雪面を踏み固めたり、平らにならす必要がある。



## 整地

### ショベルで平らにならす

もともと平らな場所ならば、足で踏み固めるだけで充分。傾斜や凹凸がある場合は、ショベルで高い位置の雪を削り、全体を同じ高さにならしたあとに踏み固める。TENT のフロアよりもひとまわり大きい面積を整地すると、設営もスムーズにできる。整地をいかにげんにやると、斜めに傾いたTENTで寝るはめになり、快適さを損なうので、丁寧にやろう

① 適度な広さがあり、安全で、平らな場所を選ぶ ② TENT サイトを平らにするため、高くなっている箇所の雪を削っていく ③ 斜面を削りながらブロックが切り出せるなら、風よけ用に積んでいく (P127) ④ TENT 設営に十分な広さが削れたら、最後に足で踏み固めて、全体にならす

## テント設営②

### テントと風よけブロックの設営

#### 張り網の固定は確実に

TENT は、雪山の過酷な環境 (寒さ、風、積雪など) から自分たちを守ってくれる重要な場所である。そらした認識をもって、確実な設営を行ないたい。設営の手順は、夏山とだいたい同じだが、雪山では特に風と雪に注意する。尾根上で風が強く吹いている場合は、TENT 本体や収納袋が風にあおられて飛ばされてしまうこともあり得る。そのため、本体をひざで押さえながら作業したり、収納袋はジャケットのポケットにすぐにしまうなどの対策を講じておく。また、ポールやペグ、ショベルを雪面に寝かせておくと、斜面を滑って谷側に落ちてしまったり、降雪時は雪に埋まって紛失するおそれがある。ペグやショベルなどは雪面に刺して立てておくといい。

夏山のテント泊との大きな違いは、ペグを雪に埋めて、張り綱を固定すること。竹ペグ(雪山ではテント付属のペグは使わず、竹などの棒に張り綱を結ぶ)の埋め方が浅いと、十分な保持力を得られず、強風にあおられたときにすっぽ抜けて用をなさない。竹ペグは深く埋めよう。また、張り綱の末端を埋めてしまうため、綱の長さを調整する自在はテント側につけ替えておく。

## テントの設営手順

### 1 テントを広げる

整地した場所にテント本体を広げる。雪山では、場所や天候によって強い風が吹くこともざら。テントが飛ばされないよう、本体を広げたらひざで押さえて、その体勢でポールを入れていく



### 3 フライシートをかける

冬期の雪山では、寒さ対策として外張(P47)を使用することもある



### 4 ペグを固定し、張り綱を張る

深さ30cmほどの穴を掘り、張り綱の末端を結びつけた竹ペグを埋める(左ページ参照)。自在を調整し、張り綱を張る



**5 完成** ペグを埋めて、すべての張り綱をピンと張ったら、設営は完了

竹ペグはひとまず雪面に刺しておくとなくさない(右)。収納袋は飛ばされないよう、衣類のポケットへ(左)



### 2 テントを立ち上げる

立ち上げてから張り綱を固定するまでが、テントが最も飛ばされやすいときなので、本体から手を離さないように注意する。重し代わりにバックパックを入れておくのいい



## 風上側にはスノーブロックを

テントサイトが、森林限界以上の尾根など、風が吹きつける可能性が高い場所なら、風よけのためにスノーブロックを積む。ブロックは、風上側からの風を遮るように、テントの3分の2ぐらいの高さまで、レンガを積む要領で重ねていく。整地で斜面を削るときにブロックが切り出せそうならば、同時進行でやってしまうと効率的だ。

設営作業に入る前にアイゼンやワカンを外すことも忘れずに。アイゼンなどをつけたままテント設営をして、本体を踏みつけて破いてしまったという失敗は意外に多い。テントが破損すれば、雪山の寒さなどから自分たちを守ってくれる「家」を失ってしまう。それは非常に危険な状況だ。アイゼンなど足元の装備は確実に外すようにしよう。

## ペグの埋め方



1 ショベルで深さ30 cmほどの穴を掘る 2 竹ペグに張り綱の末端を結びつけ、穴に入れる。このとき、自在はテント側に寄せておく。張り綱が余ってゆるむようであれば、竹ペグに巻きつけて、張り綱の長さを調整する 3 登山靴で竹ペグを踏みつけて、できるだけ深くまで沈ませる 4 穴を雪で埋めて、上からしっかりと踏み固める

## 風よけブロックの設営



1 締まって硬くなった雪面に、上から垂直にショベルで切れ込みを入れる。縦はブレード1つ分、横は2つ分ぐらいの幅にすると、適度なサイズのブロックになる 2 切れ込みを入れた部分の下から、ショベルを水平に差し込み、ブレードを少し持ち上げるとブロックが切り出せる 3 ブレードに載せたまま、崩さないように慎重に持ち上げる 4 ほかにの人にブロックを受け取ってもらい、テントサイトの周りに積んでいく

## テント生活



### 温かい服に着替える

テントに入ったら、防寒着を着込み、寒さに備える。衣類が汗などで濡れている場合、着乾かしもいいが、乾いたものに替えることで体を冷やさずことなく、快適に過ごせる。



### 濡れたものは乾かす

グローブやソックス、帽子などが濡れている場合、テント内に干したり、写真のように衣類の間に干したりして、できるだけ乾かす努力をする。



### 整理整頓はテント生活の基本

整理整頓は夏も冬も変わらない、テント生活の基本。登山靴はたたんだアウターの上に置いておくと、凍結防止になる。



### 寝るとき、 水は寝袋の間に

水をテントの端に置いておくと、外の寒さが伝わり、凍ってしまうことも。寝るときは寝袋と寝袋の間に置けば、凍る心配はない。



### テントの中で

「登山靴」「アウター」「ハーネス」など屋外で使うものは足側、「寝袋」「防寒着」「生活用具」などテント内で使うものは頭側と、置き場所を自分なりに決めておくといい。

## 「濡れ」と「寒さ」に注意

### 装備は絶対に濡らさない

雪山のテント生活で、特に注意しなければならないのが「寒さ」と「濡れ」への対策だ。

雪山では気温が氷点下になり、テントの生地が外気を遮断しているとはいえ、テント内はかなり冷える。自分自身の防寒には、インサレーションのジャケットやパンツ、テントシューズなど、防寒着を総動員して保温する。ナルゲンボトルなどに温かいお湯を入れれば、湯たんぽにすることもできる。また、水や登山靴を凍らせないようにすることも重要。寝るときには、自分の寝袋の脇や、人と人の間に置くといい。ウェアやグローブなどの濡れは行動中に凍傷や低体温症を引き起こすリスクにつながるので、テント内では絶対に装備を濡らさないこと、すでに濡れているものはできるだけ乾かすことを心がける。

登山靴やバックパック、ウェアに雪が付いたままテントに入ると、その雪が解けて装備や衣類の濡れにつながる。テントに入る前には、タワシなどで雪をしっかりと払い落とそう。外気とテント内の温度差により、テントの生地の内側が結露して、装備を濡らすこともある。結露対策は、こまめに拭き取ることはもちろん、朝、寝袋から出たらすぐに収納するなどの工夫が肝心だ。

## 水づくり

### 水づくりは慎重かつ迅速に

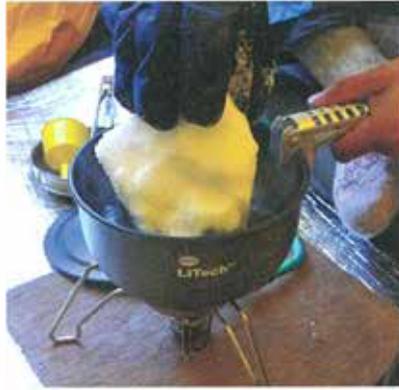
キャンプ指定地ならば山小屋で水を購入できるが、指定地以外の場所でテント泊をする場合、食事や飲み物に使う水を、雪を溶かしてつくらなければならない。夕食、朝食、飲み物、行動時の保温ボトル分など、かなりの量が必要になるため、無駄な時間や手間をなくして、効率的につくっていく。コツは火力と鍋の大きさ、熱の効率を考えることだ。

水づくりの最中、最も注意しなければならないのは、水をこぼすこと。登山靴や防寒着、寝袋がびしょ濡れになったら、雪山ではかなり厳しい状況となる。水づくりをしているときは鍋から手を離さず、何か別の作業をするならば慎重に動くようにしよう。



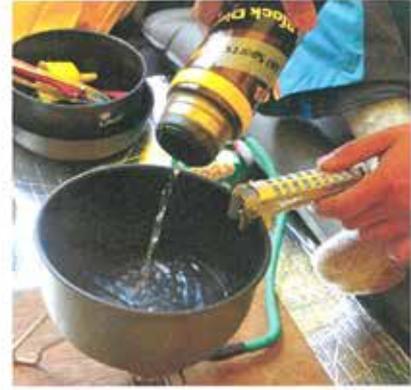
#### 3 雪を崩して、蓋をする

スプーンを使って、雪を適度に崩す。崩したら、蓋をして熱を逃がさないようにする



#### 2 鍋に雪を入れる

鍋に雪を入れる。このとき素手では行なわず、濡れてもいいグローブを着用する



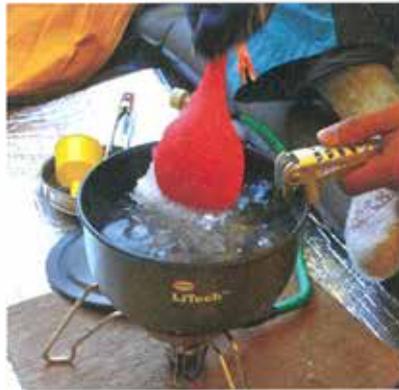
#### 1 お湯があれば、鍋に入れる

保温ボトルにお湯が残っていれば、少量でもお湯を鍋に入れておくと雪を溶かしやすい



#### 6 ボトルに移す

シャーベット状のまま、ボトルに移す。ゴミが気になるときは茶こしやコーヒーフィルターでこしてから入れる。ボトルに注ぐ際は、小さな鍋や食器を使うといい。注ぎ口の小さなボトルに水を入れるときは、漏斗があると便利(下右)。ゼリー飲料の底を切って、漏斗代わりにすることもできる(下左)



#### 5 どんどん雪を入れて溶かす

沸騰する寸前になったら、シャーベット状になるまでどんどん雪を入れる



#### 4 結露を拭き取る

鍋の外側が結露するので、ストーブから少し上げて、水滴を拭き取る。こまめにやろう



炊事中は鍋から手を離さないようにしましょう



### 水づくり用の雪を集める

きれいな雪を大きめのビニール袋に詰めて、テントの入り口あたりに置いておく。ふかふかの新雪よりも、締まっている雪のほうが水はつくりやすい

### 外の装備は雪に埋まらない工夫を

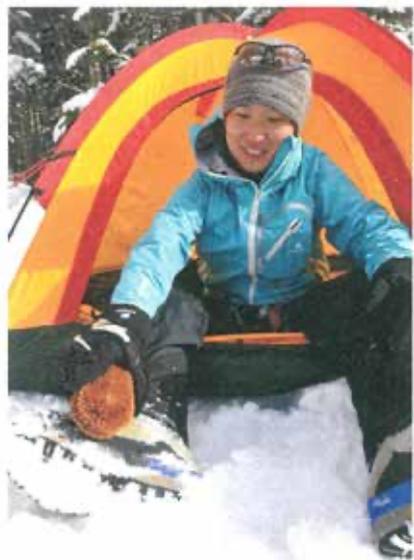
ピッケルやショベルなどテント外に出しておく装備は、必ず1か所にまとめ、雪面に立てておく。バラバラに置いたり、寝かせておくと、雪が降り積もったとき、埋まって紛失してしまうからだ



## テントに入る前に

### 装備の雪を落とす

テント内に雪を入れると、解けてウェアや装備を濡らしてしまう。登山靴、バックパック、ウェアに付着した雪はテントに入る前に徹底的に払い落とす。タワシやブラシでこすると落としやすい



## テント内での火器の使用について

テント内での火器の使用は、酸欠や一酸化炭素中毒などに陥る危険がある。ただ、雪山では、強風や降雪により、テント外で火器を使用できないことも多い。テント内での作業は、炊事中の鍋の転倒を起こしやすく、大やけどをすることもあつし、火器を倒せばテントの炎上にもつながる。また、外が吹雪でも必ず換気を行なうこと。一酸化炭素は無色透明無味無臭で気づきにくく、重大事故につながりやすいからだ。

テント内で火器を使用するときは、整理整頓や換気を確実にしない、火器や鍋の転倒、酸欠には細心の注意を払おう。

## 就寝前にはテント点検を

テント生活では、就寝中が最も無防備になる。寝ているときに強風にあおられて張り綱が外れたり、大量の降雪によってテントが埋まってしまったら、致命的なことになりかねない。就寝前には張り綱の張り具合や竹ペグがしっかり埋まっているかのチェック、テント周辺の除雪などを行なつておく。

もし一晩中、強風や降雪が予測されるなら、夜中も定期的に起きて、何度かテントの周りの除雪をしたほうがいいだろう。

テントの周りに積もった雪を除雪する



張り綱の張り具合をチェックする

## トイレの事

キャンプ指定地なら山小屋のトイレを使えるが、問題は指定地以外の場合。融雪後の環境への影響を考慮し、夏の登山道付近、山小屋周辺、テント場や水場の周辺、動植物保護区域では、携帯トイレを持参して排泄物は持ち帰るべきだろう。

それ以外の場所でも、使用した紙は必ず持ち帰る。雪で拭くのもおすすめだ。トイレは、テントから離れた場所に穴を掘り、用を足したら雪をかけておく。それぞれのメンバーが好き勝手な場所で用を足すと、水づくり用の雪集めのときなど衛生面で問題が生じるため、トイレの場所は必ず決めておこう。